

「戦争」はダメだ

沖縄県立沖縄高等特別支援学校三年

竹内 琉照

僕は、広島に被爆四世だ。なぜ広島に被爆四世かと言うと、お父さんが広島に出身で、お父さん方のひいひいおじいちゃん、ひいひいおばあちゃん、ひいおばあちゃんが広島に被爆したからだ。

お父さんが小学生の頃にひいおばあちゃんから広島に原爆のことについて聞いたことがあると言っていた。一九四五年八月六日、ひいおばあちゃんが二十三歳の時に勤めていた兵器所で被爆した。爆風と黒い煙がもくもくと空の上を高く舞い上がり、やがて黒い雨を降らせた。この黒い雨は、放射能を含んだ雨で、黒い雨を浴びた多くの人々が白血病で亡くなった。また、爆風で火傷をした人々がたくさんおり、「水をくれ」と叫んでいたそうだ。ひいおばあちゃんは山の裏側にいて助かったそうだが、家に帰るその道中は地獄絵図だったと言っていたそうだ。

僕は今、沖縄に住んでいる。沖縄も戦争時に地上戦になり、多くの人が亡くなった。お母さん方のひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんは沖縄出身だ。

僕は広島と沖縄の血を引いている。日本で唯一の地上戦の沖縄、世界で最初に原子爆弾を落とされた広島。

僕は両方の地の歴史を知り、二度とこのような戦争を起こしてはいけないと思う。人は傷つけあってはいけないし、戦争をして傷つけ合っても何も解決しないと思う。

新しい令和の時代は人々が争いや、傷つけ合うことのない平和な時代となることを願っている。